

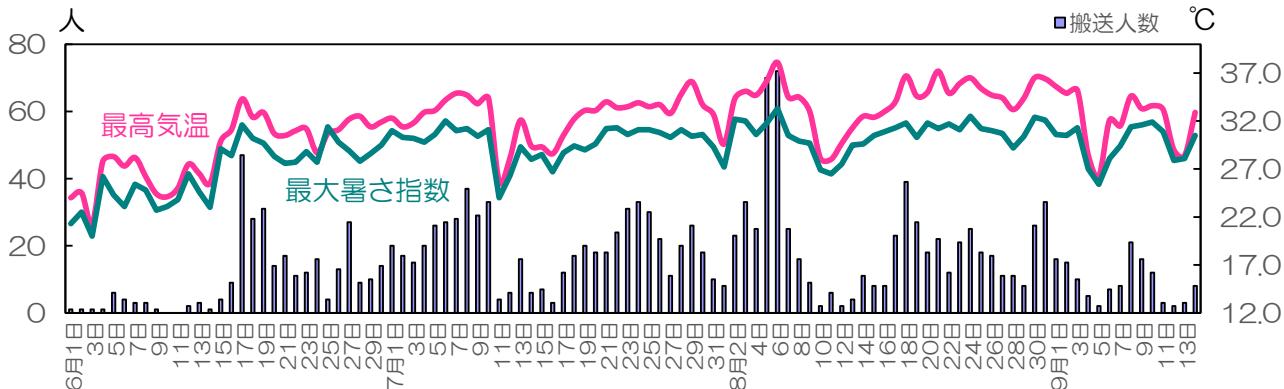
熱中症情報



衛生研究所の
インスタグラム
できました。
フォローお願いします！

<搬送数>

令和7年5月1日～9月14日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,684人（5月26人・6月293人・7月604人・8月633人・9月128人）でした。8月6日は、最高気温が38.1℃で、搬送数が72人/日と、期間内で最多を記録しました。8月17日～31日までは、連日、最高気温が34.0℃以上（猛暑日は8日）で、猛暑日の搬送数は、18人以上/日でしたが、9月11日以降は、搬送数も10人/日以下です。



熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。

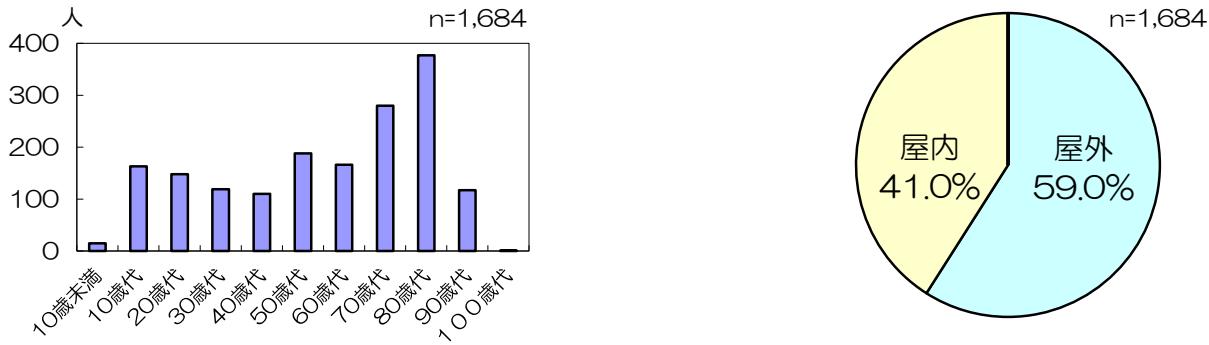
気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働くと、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

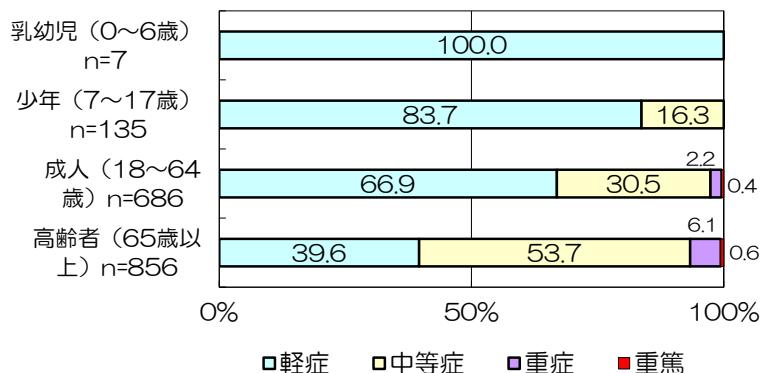
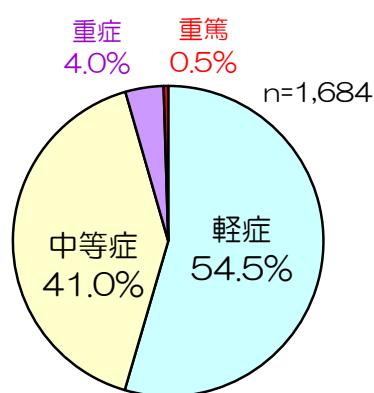
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別> 80歳代が377人（22.4%）で最も多く、<発生場所> 屋外59.0%、屋内41.0%で、次が70歳代で280人（16.6%）でした。

屋外での発生が多くなっています。



<重症度*> 軽症54.5%、中等症41.0%、重症4.0%、重篤0.5%でした。高齢者で中等症以上の割合が60.4%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。